

2月16日 創世記8章1節～9章17節

【解説と黙想】

虹の契約

人は「人間」という存在の可能性を信じて生きていたいと思うものです。しかし全ての創造主であられる神さまは、「地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められ」（創世記6：5）しました。神さまの創造の業が完成した時、「お造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」（同1：31）と記されているのに、人は造ったことを神さまから後悔される状態にまで陥ったのです。人の可能性を信じて、罪に目をつぶることの出来るような状態ではないのです。罪の影響は広く及びます。人のせいで「土は呪われるものと」（同3：17）になりました。そのようにして人は自らが作り出した罪の世界に苦しめられ、ますます悪くなっていきます。そのために、神さまは大洪水をおこし、「人を地上からぬぐい去ろう」（同6：7）とされました。それがノアの洪水と呼ばれる事件です。

しかし何故ノアの家族だけが特別に洪水の危険から免れることが出来たのでしょうか。「その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ」（同6：9）とありますが、ノアも罪に堕ちた人間であり、罪の世界に生きているのですから、ノアの中に滅びを免れる理由があったとは考えにくいのです。6章8節には「しかし、ノアは主の好意を得た」とありますが、原文は「ノアは主の目の中に憐れみを見出した」と訳せません。神さまがノアを憐れみ、救いの根拠をお与えになったと考える方が相応しいのです

私たちは、ノアのような人物は特別なだと考えがちです。しかし程度の差はあれ、全ての人は神さまが造ったことを後悔されるような罪に満ちた存在なのです。にもかかわらず、ノアだけではなくノアの家族も含めて神さまが洪水から守って下さったのは、人を絶滅させるには忍びないと思われ、人が救われる道を開いて下さったからなのです。

そのような神さまのご配慮が分かったからこそ、ノアは箱舟から出た時、真っ先に「主のための祭壇」を築いた、と考えるべきでしょう。ノアは焼き尽くす献げものをささげました。その香りを神さまは受け入れられました。これは当然のことではありません。全ての礼拝行為は必ず聞かれるものと限らないのです。イザヤ書には、罪人の礼拝行為に対して神さまが「むなしい献げ物を再び持つてくるな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの」（イザヤ書1：13）と拒否される言葉が記されています。しかし神さまはノアの礼拝行為を受け入れられました。ここに神さまの憐れみを感じさせられます。

ノアが献げ物をささげた時、神さまは「人に対して大地を呪うことは二度とすまい」と決意なさいました。その理由が不思議です。「人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ」。神さまは、人が自分で悪から立ち帰るのは不可能であることをよくご存じです。そうした人を滅ぼさないために、神さまご自分が事を成そうと立ち上がられるのです。それが虹の契約です。（常石召一）

《参照聖句》 ヘブライ人への手紙11章7節

《教理問答》 子どもと親のカテキズム 問25

2月16日 創世記8章1節～9章17節

【説教展開例】

虹の契約

◇..... 単元のねらい◇

ノアの時に起きた大洪水は世界全体を滅ぼすものでした。それは人の悪が神さまには耐えられないものだったからでした。しかしその中で神さまはノアとその家族を滅びから守りました。神さまがそのようになされたのは、神さまが全人類を滅ぼすことに耐えられないと思われたからです。人が神さまに滅ぼされずに済む理由は、人の内になく神さまにあります。私たちも神さまの憐れみによって滅びを免れ、救われた者としての歩みをする事が出来ます。その根拠である救いの御手をこの物語に見ましょう。

「虹の契約」

皆さんは船に乗ったことがあるでしょうか。乗ったことがある人は、どれぐらいの期間、乗っていましたか。

現代の船には普通、舵とエンジンがついています。舵は船の向きを定めるのに、エンジンは船を動かすのに必要です。エンジンがなかった時代は、風を受ける帆が必要でした。それらがなければ船は目的地にはたどり着けません。しかしノア一家の乗った舟は箱舟です。エンジンも帆も、舵もありません。ただ水の上を浮かぶだけの舟で、どこかに向かうことは出来ません。その舟にノアたちは何か月も乗り続けました。舟の外は全部水です。陸地は無くなり、箱舟の外の人たちは、全員水の下に沈んでしまっているのです。箱舟の中だけが生きることが出来る場所であり、他に生きる場所はなくなったのです。ノアたち一家は、このようになされた神さまをどれほど恐ろしいと思ったでしょう。

ただノアは、神さまがやがて舟から出る日を準備して下さっていることを知っていました。だからその日が来るのを待ち望んでいました。さて、降り続けた雨はやみ、ようやく舟は山の上の地面にとまりました。しかしまだ舟から降りることは出来ません。舟の外の世界では、全ての生き物が水が飲みつくしてしまいました。神さまがそう

なされたのですから、命が再び生きることが出来るように神さまが整えて下さるまでは外に出てはいけません。ノアは神さまの言葉を待つと同時に、外がどのような状態になっているのかを確かめようと思いました。そこでまず鳥を放ちました。しかし鳥はすぐに帰ってきました。まだ止まる木や陸地がなかったのです。次に鳩を放ちましたが鳩も同じでした。それから1週間後、また鳩を放ちました。すると夕方になって鳩はオリーブの葉をくわえて帰ってきました。さらに1週間後、また鳩を放ちましたが、その鳩は帰ってきませんでした。外の世界で生きることが出来るようになったからです。水によって滅ぼされた世界が、再び生き物が生きられる場所となったのです。

その時、神さまはノアに「箱舟から出なさい。そして子を産み、増えるようにしなさい」と言われます。こうしてノア一家は久しぶりに箱舟から出ました。そこでノアが真っ先にしたことは、神さまに礼拝をささげることでした。神さまが悪を憎んで世界を滅ぼされた中で自分たちだけが生きていることに本当に驚いて、まずは神さまを礼拝しなければならなかったのです。その礼拝を神さまは喜ばれました。その時、神さまはこう言われました。「人に対して

大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ」。とても不思議な言葉です。

神さまは全く正しいお方です。ですから悪いことをそのまま放ったらかしにすることが出来ません。人が心に悪いことを思い、とても悪いことをしたので、神さまは洪水によって滅ぼされたのでした。しかし神さまは、人は小さい時から悪いので今後はこのようにはしない、とおっしゃるのです。これが神さまの契約です。

契約というのは、仕事の世界で良くなされます。例えばある仕事をする時、約束の日までに終わればこれだけのお金を渡すけれども、もし約束の日までに出来なかったらお金を少なくする、などということを決めるのです。

しかし神さまが人と結ばれる契約というのはそういうものとは違います。神さまは人が初めから悪いということが分かっています。もし皆さんが神さまの側だったら、どのようなことをその契約に盛り込むのでしょうか。そもそも、悪い人間に安心して仕事など任せられませんから、契約など成立しないのではないのでしょうか。結局は人を罰する内容しか盛り込まないのではないのでしょうか。

しかし神さまは、契約を立てた、とおっしゃるのです。それは神さまと人とが納得するために良く話し合った上で成立したものではありません。神さまが一方的にお立てになったものです。それならば、どれほど人間にとって厳しい契約か、と私たちは身構えてしまいます。しかしその契約とは、「二度とこのように、ことごとく滅ぼすことはしない」という内容なのです。人が悪いことをしても、この度の洪水でしたようにことごとく滅ぼすということはない、という約束なのです。

では人が悪いことをしようがどうでも良

い、神さまは何もなさらないということなのでしょう。決してそのようなことはありません。悪に対して神さまはその責任を問われるお方です。実はこの契約が意味しているのは、人が悪いことをしても人がことごとく滅ぼされないために、神さまご自身が人の悪の責任を負うということなのです。

この洪水の時、ノアとその家族だけが滅びを免れました。それはノアと家族が悪を犯さなかったからではありません。神さまからの特別なお守りを受けたのです。私たち全ての人はやはり悪を犯す罪人です。そのために神さまから責任を問われるべき者です。しかし悪の責任を問われる時、私たちは罰せられて滅ぼされるのかと思いきや、滅ぼされないのです。ノアが選ばれたように、私たちも同じように守られる、との約束を神さまはして下さったのです。ここでカギを握るのが、神さまが「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる」(9:9)、という言葉です。実は神さまはここでイエスさまのことを言っておられるのです。いくら私たちが悪いことをしてしまっても、イエスさまを私たちが滅ぼされないための救い主だと信じれば、神さまが悪の責任を問う時も滅びることはない、と神さまは示して下さいているのです。

この契約を立てられた時、神さまはノアに虹を見なさい、と言われました。虹はこの契約を思い出すためのものだ、と言われたのです。

雨の後に浮かび上がる虹はとても綺麗なものです。それは綺麗なだけでなく、神さまが私たちが救うために契約を立てて下さったしるしなのです。虹を見るたびに、神さまのこの約束を思い出しましょう。

(常石召一)

《今週の暗唱聖句》

雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留める。(創世記9章16節)

2月16日 創世記8章1節～9章17節

【幼稚科】

やくそくのしるし

〈創世記8：11〉地から水がひいた！

クリル板か、なければ画用紙でも可)

もんだい：こうずいのとノアさんがとばしたハトがかえってきました。くちばしにはなにをくわえていましたか？

こたえ：(下の絵を用いることもできる)

- 1 りんご
- 2 ミミズ
- 3 ワカメ
- 4 オリーブの葉

工作の準備

A4版クリアファイルを四つにカットする。一つのクリアファイルは二重になっているので、8枚の台紙が取れます。

切ったクリアファイルとほぼ同じ大きに縮小・拡大して調整し、下絵をコピーする。

クリアファイルの下に、下絵コピーを置き、マスキングテープなどで固定する。

〈創世記9：12, 13〉虹(にじ)

[工作] “にじのスタンドグラス”

用意するもの(100均ショップで揃います)

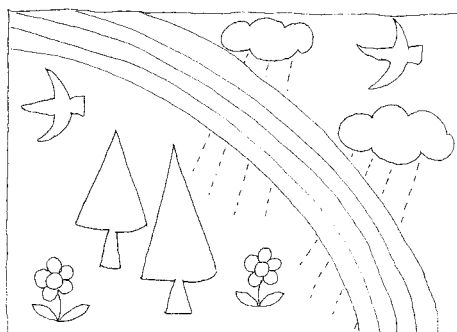
- ・ガラス絵具…赤色、(オレンジ色)、黄色、緑色、青色、(紫色)のうち、3～7色
- ・A4版クリアファイル(または透明ア

工作しよう！

クリアファイルから透けて見える下絵の虹にぬり絵をするように、色を付ける。

※乾くまで1時間くらいかかる。

※小さな額縁に入れてもよい。



2月16日 創世記8章1節～9章17節

【小学科上級・中学科】

虹の契約

1. 創世記8：1～19を読みましょう。

- ①なぜ、水が減り始めたのですか？

- ②ノアはどうやって水が引いたかを確認しましたか？

- ③動物に対しての神さまのご配慮はどんなものでしたか？

2. 創世記8：20～22を読みましょう。

- ①ノアは箱舟を出てまず何をしましたか？その理由は何ですか？

- ②神さまはノアの捧げものに対してどのように応えられましたか？

3. 創世記9：1～17を読みましょう。

- ①神さまがノアとその息子に与えられた祝福は何でしたか？アダムとエバに与えられた祝福（創世記1：29）とどのように違いますか？

- ②なぜ人の血は流されてはならないのですか？

- ③神さまはノアとその子孫に対して、何を約束されましたか？